

拡大する台湾ハブの生息域

沖縄本島に移入された台湾ハブ

台湾ハブ（図1）は、台湾と大陸東部が原産の毒ヘビです。ハブ酒ハブ粉などの製品やマンガースとの決闘ショーに用いるため1970年代頃から県内に輸入されていました。1993年に名護市で初めて野外で発見された後、同市為又・中山地区を中心に定着が確認され、近年では同地域周辺で高密度化しています。2005年には恩納村山田でも発見され、沖縄本島内で離れた2つの地域（名護集団[名護市の一部とその周辺]と恩納集団[恩納村南部]）に台湾ハブが定着していることがわかりました。

台湾ハブの生息状況

名護市とその周辺では、ハブ捕獲器30～40台を、同じ地点に3ヶ月間設置し、台湾ハブ捕獲の有無を調べて分布域を特定しました。その結果、2007年には名護市、今帰仁村、本部町の3市町村にまたがる直径約6kmの範囲に分布していることがわかりました（図2）。生息密度の指標となるハブ捕獲器（生きたマウスを用いたトラップ）の捕獲率（ハブ捕獲器1台を1ヶ月間運用して捕れるハブの数）が、名護集団では年々増加傾向にありましたが、近年では0.5から0.6と安定してきました（図3）。この数字は沖縄本島中南部におけるハブ捕獲率の約5倍の値です。咬傷事故も2005～2010年に、名護市と今帰仁村で7件発生しています。

台湾ハブ対策

対策として、分布が確認された市町村では、ハブ捕獲器設置による捕獲を役場が行っています。



図1. 名護市で捕獲した台湾ハブ

2003年から2009年までの名護市、本部町、今帰仁村、恩納村の4市町村による捕獲総数は1,391匹になります。しかし、現在の捕獲器運用では、密度低下の兆しがないのが現状です。

2010年には名護市稲田小学校内で複数個体を捕獲、そして読谷村とうるま市でも捕獲例があり、さらに分布域を拡大していることがうかがえます。生息地域およびその周辺地域では、警戒とさらなる対策の強化が必要です。当研究所では、今後も現状の把握と、有効な対策手法の研究に力をいれていきます。市町村役場をはじめ県民の皆様には、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

咬まれないための注意点や対策については下記URLを参照してください。

沖縄県衛生環境研究所 ハブに気をつけよう：

<http://www.eikanken-okinawa.jp/seitaiG/habu/habu.htm>

【衛生科学班】

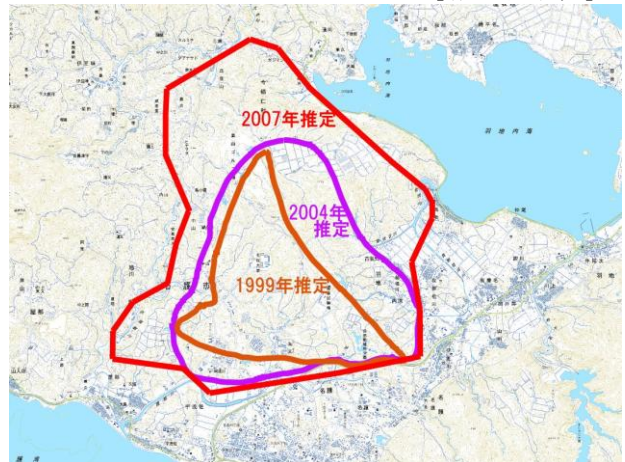


図2. 台湾ハブ名護集団の推定分布域。

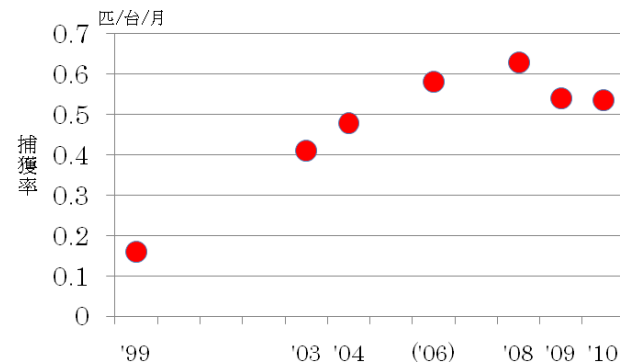


図3. 台湾ハブ名護集団の捕獲率の変化